

第1回市民検討会議

1 開催日時

平成22年5月25日(火) 午後2時00分～午後4時00分

2 会場

熊本市国際交流会館 地下2階多目的ルーム

3 出席委員(順不同)

中村委員、三島委員、片山委員、山口委員、大住委員、岩本委員、藤原委員、守田委員、永木委員、林委員、奥山委員、委員15名中11名出席

4 次第

(1) 委嘱状交付

(2) 環境保全局長挨拶

(3) 委員自己紹介

(4) 事務局紹介

(5) 委員長・副委員長選出

(6) 議事

① 事務局説明

- ・第3次熊本市環境総合計画について
- ・市民検討会議の役割について
- ・今後のスケジュールについて

(2) 意見交換

発言要旨

■委嘱状交付

(原本環境保全局長より委員を代表し中村委員へ委嘱状の交付)

■環境保全局長挨拶

■委員自己紹介

○中村委員

エコパートナーくまもの会長をしております中村です。仕事は養蜂をしております。蜂蜜取りで忙しい時期です。よろしくお願いします。

○三島委員

同じくエコパートナーくまもの三島です。エコパートナーの中のワーキンググループのひとつである『ごみなくし隊』から来ました。仕事としては主婦です。環境活動といたしまして段ボールコンポストを市民の皆様を広げたいと日々活動しております。よろしくお願いします。

○片山委員

環境ネットワーク熊本の片山と申します。普段は植木町で農業を行っております。環境ネットワーク熊本の理事として出席しておりますが、同様に環境ネットワーク熊本の中に『ユースかんくま』といいまして、若者向けの環境グループの代表も務めております。主な活動としては4月のアースウィークのオープニングイベントや、みずあかりのお手伝いをしております。近々のイベントで言いますと6月21日の夏至の日に100万人のキャンドルナイトを、街中でイベントをしようと思っておりますので興味のある方はお話をください。ありがとうございました。

○山口委員

NPO法人コミネット協会の山口と申します。久しぶりに市民会議に出させてもらいましたが、だいぶ若返ったなという印象です。元気なおじさん、おばさんですが、一緒に議論させていただきたいと思います。

○大住委員

大住です。普段は地下水を飲み続けたいという活動をしております。

○岩本委員

社団法人熊本青年会議所から推薦でおうかがいしました岩本です。普段は健軍で設備工事、プロパンガスの会社を行っております。環境に対しては、ちょっとしたことはいろいろやっております。青年会議所としても環境についての取り組みをやっております。個人的にも熊本が大好きで、熊本のためになる、こういった会議に参加できることを光栄に思います。

○藤原委員

熊本YMCAの藤原と申します。普段は新町にございますYMCAで、ICRという国際地域会員部という部署があり、そちらに勤務しております。今はアースウィークくまもの事務局を務めさせていただいております。

○守田委員

熊本市農業後継者クラブの会長をさせていただいています守田と申します。農業に関わりまして環境のこと、地下水のこと、必ず携わらないといけないと思いますので、今回の会議ではいろいろ学ばせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○永木委員

熊本県立大学大学院の永木と申します。よろしくお願いします。今回は荒木教授の紹介で参加させていただきました。普段は荒木教授の下で住民の参加と協働に基づく地域づくりについて研究をしています。今回はいろんな経験をさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○林委員

熊本学園大学福祉環境学科 4 年の林千尋です。普段はエコパートナーくまもとの『自転車ワーキンググループ』に参加させていただいております。よろしくお願いします。

○奥山委員

奥山と申します。市内の長嶺に住んでおります主婦です。個人的に『かんくま』の個人会員で、ときどき事務所にお邪魔して手伝いをさせていただいております。それからロハスという言葉をご存じだと思いますが、NPO 法人のロハスクラブ認定のロハスコンシェルジュをしております。こういう委員にさせていただくのは初めてですが、いろいろ学ばせていただきたいと思います。

○事務局

ありがとうございました。なお本日は、荒木委員、原委員、吉浦委員、吉村委員は所用のためご欠席でございます。

続きまして、私ども事務局のメンバーを紹介させていただきます。

(山田環境保全局次長、植木課長、村上温暖化対策室長、村上主査、上田主任主事、谷山技師、西尾主事、井上主事／司会 紫垣補佐)

■委員長・副委員長選出

○中村委員

大住さんを推薦したいと思います。

○事務局

委員長として、大住さんのご推薦の声があがっておりますが、他にございませんでしょうか。

(一同拍手)

それでは大住委員をお願いいたします。

続きまして、副委員長に立候補、ご推薦等はございませんでしょうか。

○大住委員

本来であれば荒木委員に委員長をお願いしたいところですが、私が委員長になるのであれば、是非副委員長を荒木委員にお願いしたいと思います。皆様いかがでしょうか。

(一同拍手)

○事務局

副委員長は荒木委員にお願いするということで異議はございませんでしょうか。それでは副委員長に荒木委員をお願いしたいと思います。荒木委員は本日ご欠席ですので、事務局より経緯を伝え、副委員長就任のご了解をいただきたいと思います。

それでは、大住委員長から一言ご挨拶をお願いいたします。

○大住委員長

力不足で申し訳ありませんが、皆さん、力を合わせて、副委員長になっていただく荒木委員、事務局の皆さんにもご協力、ご助言をいただきながら進めて行きたいと思います。合併と、目前に迫った政令指定都市になることも視野に入れたいといけません。そういうことを含めて、よい提言ができるように皆で頑張りたいと思います。どうぞご協力よろしくをお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。これより、会議の進行につきましては、第3次熊本市環境総合計画市民検討会議設置要綱第5条第2項に基づき、委員長をお願いしたいと思います。大住委員長お願いいたします。

○大住委員長

それでは要綱に基づき議長をつとめさせていただきます。皆様ご協力をお願いします。早速議事に入っていきたいと思います。まずは事務局から第3次熊本市環境総合計画について、市民検討会議の役割、今後のスケジュールについて説明をお願いします。

■事務局説明

・第3次熊本市環境総合計画について

熊本市環境基本条例第3条第1項に規定されている基本的かつ環境的な計画。今回は平成23年度から10年間の第3次計画の策定となる。第2次を踏襲し、更に発展させるため、基本的理念として7つの視点(資料1の2、資料3第2章2)を置いたもの。資料3が構成案(たたき台)であるが、今後この市民検討会議や環境審議会においてご意見をいただく中で色々変わってくると考えている。現在、環境審議会に諮問しているところで、今後会議での様々なご意見をとりまとめ、最終的に環境審議会から答申をいただき、計画策定へと進めていきたい。

・市民検討会議の役割

協働による取組みということで、第3次熊本市環境総合計画に市民・事業者の意見を反映させるため、資料3の★の箇所を議論いただき、提言書としてまとめていただきたい。

・今後のスケジュール

5回の会議を予定しており、各会議での議題はスケジュール案のとおり(★は資料3と対応)。

○山口委員

資料3の第2章の7つの趣旨が論点になるのですか。

○事務局

今日の論点になります。

○山口委員

はい。わかりました。

○大住委員長

ありがとうございました。計画を見るとサッサと進めていかないとだめだなというのが分かってびっくりしていますが、事務局から説明がありましたように、本日は顔合わせですよ。今日、急にこの資料を見せられて、意見はなかなか出ないと思います。今、自分がしている活動から、こんなことを考えているということをお願いいたします。エコパートナーから中村委員、お願いしてよろしいでしょうか。

○中村委員

スケジュールに基づいての今後10年間の理念とすべき基本的事項の①～⑦のどれか1つという意味ですか。

○大住委員長

というより、今、ご自分の会でなさっている活動の中で、考えていることとかを出していただいて、それは小さなことかもしれませんが、一回りまわってみたらどうでしょうか。

○事務局

今からご議論いただきますが、環境審議会でのご意見がどのようなものがあったかをお話いたしますと、意見をいただきやすいのではないのでしょうか。資料につきましては初めてお見せするわけですが、次回からは事前にお渡しできるようにしていきたいと思います。

(資料2の3ページ、右下「環境審議会でのご意見」説明)

○大住委員長

ありがとうございます。今の説明で分かりやすくなったかと思います。先ほどの説明もあわせて何かご質問はありますか。よろしいでしょうか。それでは最初にご説明いただいた、7つのキーワードや今の意見を踏まえ、これだけでいいのか、もっと付け足すものがあるのか、ということも踏まえながら、ご自由に意見をいただきたいと思います。中村さんお願いします。

○中村委員

3ページにエコパートナーのことが書いてあります。これまでの目標で「パートナーシップをつくる」。現状分析としては「エコパートナーくまもとへの参加者数は、環境フェアなど各種イベント等で広く入会の呼びかけを行っているが、組織や会費等の課題もあり、目標値には達していない」と書いてあります。ということでエコパートナーの課題としてはこれに取り組んでおります。この中で市民協働参画というのがあり、それがまだ市民に浸透してないので、そういった仕組みの理解を先にやる。この最後の資料に市民協働推進課からのパンフレットがついていると思います。その中で、私は中島校区のまちづくり委員会の会長をやっております。自治協議会の中にも環境部会というのがありますが、ほとんど機能していません。何をやればいいのかというのがあります。

それでいろいろ話し合っていたときに公民館の出前講座や、そういったプログラムを市から提示していただくと、公民館の活動のために助成金が出ます。そういったプログラムを利用するための公費、環境だったら環境企画から出していただく、社会教育なら社会教育。もっと窓口をオープンにしていれば公民館活動、地域のまちづくり、地域の自治会からの普及啓発になるかと思います。今、公民館の館長も何をやったらいいのか、環境のことを聞かれても分からないという話です。プラスチックごみの説明会がありました。40名ほど参加しました。そういったときにはうちの校区では人がものすごく集まります。そのときにいろんな意見があって次回、何をしようかという話になります。そういったことが中島校区からみた場合は、市との接点が自治会長のみであると思います。あと、エコパートナーにしる NPO にしる、マネジメントというかお金の問題があります。助成をしてくれというわけではありませんが、市の行政、今から第3次総合計画にある事業に対しての、市民協働として市民と事業者、行政と一緒に手助けできるような計画づくり、しくみづくりをこういった会議で話し合っていけばいいと思います。それと文句じゃないですが、第2次総合計画のときにまちづくり委員会をつくれとあり、市民協働課からもあり、ものすごくたくさんつきました。そのとき私たちがまちづくりを一本化して、そういった環境行政とか地域のまちづくり、ごみ問題とかを一括でやろうと立ち上げました。しかしその後、自治協議会に変更になり、まちづくり委員会の助成がなくなりました。それでまちづくり委員会と自治協議会が動いているところでは、真二つに分かれた校区があります。要するに高齢者と若者の段差です。そういったところも行政とのギャップがわざとできているような感じがします。だから縦の行政ではなく、横の行政。例えばこの中にも地域づくり推進課に行って自治協議会の中に環境部会をつくりなさいとか、そういった流れができるといいと思います。

○大住委員長

ありがとうございました。

○三島委員

私は段ボールコンポストに取り組んでおります。とても関心が高いです。これは女性に限らず男性の方も参加をされます。ある意味、男性がこれに熱中してくれると、とても生ごみの減量には有効かなと思います。熊本市も生ごみの処理に関しては、とても高価な電気生ごみ乾燥機、7万円くらいするものがありますが、前は4万円、今は3万円の助成があります。それにグリーンのコンポストの助成がありますが、もっと庭とかが広くなくてもできる段ボールコンポストにも助成がされたらいいかなと思います。物事を進めるには選択肢が必要だと思います。その中から自分に合ったものを選べるということが大切だと思います。段ボールコンポストは1回600円くらい、それが3か月使えますから、特にごみ処理が有料化になったということで、とても関心が高まっています。こういう機会をとらえ、どうやって埋め立てゴミを減らすかと関心を持ってもらうことが、ごみ減量の第一歩だと捉えて、ちゃんと市民の生活に合った仕組みづくりを一步一步この場でも検討していけたらいいと思います。

○片山委員

環境ネットワーク熊本という環境 NPO があります。十数年ほど経っております。30歳から理事を

始めた方も今は 40 歳くらいになっておられます。なぜ『ユースかんくま』というのができたかという、環境教育とかいろいろされている中で、小学校等の小さい子ども向けの環境教育があります。大人の方向けの環境活動の会議もありますが、大学生や、一般社会人になったときにどのような環境のことを考える機会があるかと考えると、ありません。若い人向けの環境を考える機会があればいいなと思い、ユースかんくまがつくられました。ユースかんくまと申しましてもメンバーは十数名です。NPO の特徴として、小さなグループでも影響力があると思っております。自分がこの委員に選ばれたということでお話をさせていただくと、自分たちが 10 月にある「みずあかり」というお祭りのお手伝いをさせていただいていると言いました。実行委員長の石原さんのお話を聞くと、みずあかりというのは、根本は竹の再生であり、循環型の環境というものがありますが、観光の部分も出てきています。「結果的に観光だった」と言われます。自分もその言葉が好きで、その言葉を自分たちの活動に当てはめると「結果、環境」であればいいと思います。若い人たちにどれだけ敷居を下げられるかなというのを考えています。何が若い人は好きかと言われると、6 月 21 日に 100 万人のキャンドルナイトをやらせていただきます。影響力という部分で、何を巻き込んだらいいのか、考えたときにタウン情報誌、熊本の『タンクマ』という雑誌があります。それに載せてもらおうと思います。さらに美容室に入ってもらい、ヘアショーをしてもらおうと考えたり、長崎書店さんでイベントのディスプレイを行います。新聞のエコバッグであったり、居酒屋で使われる竹灯籠など、若者向けのディスプレイをし、お笑いだったり、クラブ DJ だったり、若い人が好きなものを集めて、結果的に環境を考えてもらえたらいいと思います。

○大住委員長

ありがとうございます。

○山口委員

ユースかんくま頑張れ。コミネット協会の山口です。情報洪水の中にいるものですから、いろいろ知らない事もあります。熊本市の自治基本条例が成立したんですね。平成 22 年 4 月 1 日施行、市政だよりは見ているんですけども、今知ってしまいました。何点かお尋ねです。熊本市の環境審議会のメンバーの方にはどんな方がいらっしゃるのかというのが 1 点目。この 1 枚ものの紙「市民検討会議の役割と計画の策定までの流れ」の中で、市民検討会議のあとで庁内検討会議となっていますよね。【環境関連事業の整理】となっていますけれども、この行政の中の環境総合計画に関わられる部署というのはどこなのかというのが 2 点目。第 2 次総合計画をつくる時も、だいぶ私も関わらせていただきました。いろいろワークショップもやった記憶があります。少なくともこの資料、データに関して言うと、かなり洗練されていて、要は第 3 次ではどこがポイントなのか、論点だと思います。そこのところ、集中的に審議するというのが課長からの説明で星印とありましたので、そこのところを絞り込んで議論していかないと短時間の議論になってしまいます。質問としてはそれをまとめる方、あちらにコンサルの方が座っていらっしゃるようですが、いらっしゃるなら紹介をしていただいた方がメンバーとしてはいいかなと思います。

○事務局

まず、環境審議会のメンバーということですが、環境審議会は初めてお聞きになられる方もいら

っしやると思います。熊本市環境基本条例というものがございませう。環境審議会は第 10 条にございませう。この中に審議会の設置というものがございませう。「市長の諮問に応じ、良好な環境の確保に関する基本的事項を調査審議するため、熊本市環境審議会を設置する」ということございませう。これに基づき環境審議会がございませう。環境審議会ではどういふ事をやるかという、環境総合計画の策定に関すること、これが第一番目です。これについて審議するということになってございませう。その他には公害対策に関わる基本的事項とか、それらの環境構築等もございませう。緑地の保全、緑化推進に関すること、これらを審議してございませう。その他、全般的には熊本市の環境について条例をつくったときにはご報告してございませう。ただ一番大きいのはこういう環境総合計画の策定に関することとか、公害問題で大きな問題が起ったときに審議してございませうということです。メンバーは学識者、学識経験者、市議会議員、関係行政機関、その他市長が適当と認めるものということで現在 20 名で構成してございませう。メンバーには例えば崇城大学の先生、熊本県立大学、熊本大学、東海大学、それぞれに環境部門を中心とした教授陣にお入りいただいでございませう。

○山口委員

せつかくですからお名前をお願いしませう。

○事務局

崇城大学工学部の准教授で天本徳浩先生。学識者ということで熊日論説副委員長の井上さん、熊本県立大学の上拂耕生准教授、前熊本大学大学院教授内野明德先生、熊本大学医学部の加藤貴彦先生、東海大学農学部の椛田先生、県立大学環境共生学部の篠原先生、熊本学園大学経済学部の新村太郎先生。市議会議員では 3 名、重村和征議員、東すみ代議員、藤岡照代議員。それから関係行政機関の職員として、国土交通省の九州地方整備局熊本河川国道事務所長の喜安和秀さん、熊本県環境生活部長の駒崎照雄さん、環境省九州地方環境事務所統括環境保全企画官の長澤満郎さん、その他、再開発プランナーの上農淑子さん、公募委員として古賀清美さん、消費生活アドバイザーの坂口真理さん、熊本消費者協会事務局長の徳永理映さん、熊本商工会議所女性会の西村妹里子さん、NPO 法人くまもと温暖化対策センター理事長の宮原美智子さん。以上 20 名の方です。

それから庁内の検討会の部署ということですが、これは全庁的に入ってございませう。課名まで申し上げた方がよろしいでしょうか。局から申しますと、企画財政局、市民生活局、健康福祉局、子ども未来局、環境保全局、経済振興局、都市建設局、交通局、上下水道局、教育委員会。あとはそれぞれに関係する課、例えば市民生活局では市民協働推進課とか、経済振興局では産業政策課とか観光政策課、農業政策課。このような関係する課に入ってございませう。

それからこちらにおいでございませう株式会社博多マーケティングコンセプトハウスさんです。私どもの計画というのは、コンサルさんに丸投げするものではございませう。基本的には事務局でつくっていくということございませう。それをまとめていただいでございませう。

○山口委員

福岡の方ですか。熊本市をご存じの方ですか。全然違うところから来て、まちのことをまとめるときにつまったことが昔ありましたので、そういうことがないといいですね。

○事務局

福岡と熊本に事務所があります。

○大住委員長

自己紹介をお願いします。

○田添

失礼いたしました。今、ここにいる3人は3人も熊本出身です。以前から熊本市さんの仕事をさせていただいております。ここ10年くらいでしょうか。今も、3人は熊本市民です。

○山口委員

わかりました。

○大住委員長

それともう1つ議論のポイントということですが。

○事務局

今日は初めてでもございますし、環境総合計画がどういうものか、初めての方もいらっしゃるだろうということで、今日はこういう資料を用意したわけでございます。議論も概略であっても基本理念、私たちが住む熊本市の環境への思いということでも語っていただきますと、それがどういう風になるか分かりませんが、反映できるようにする部分がございます。まずはこの部分でお話をいただけないでしょうか。議論を絞り込まないといけませんので、私どもの方でもたたき台をつくって、その中でご意見をいただく形で進めていただきたいと思います。そういう流れでポイントを絞った資料の提供もさせていただきたいと思います。

○大住委員長

山口委員は質問だけでよろしかったでしょうか。今のことを踏まえながら自由に発言してください。

○岩本委員

今回推薦を受けまして、事業者という立場で出るようにということでした。そういった意味で考えてみましたが、環境というのが大切だというのは皆分かっています、事業というのはどうしてもそこに利益を追求しなくてはならない。そういうことで費用を抑えるための活動、ペーパーレス化などは率先して進めていると思います。逆に費用が発生するものについてはなかなか進んでいないのかなと思います。皆も分かっています、費用との関係でできないということです。今後は事業者としても環境に配慮しないと事業ができないという覚悟は必要ではないかと思います。そういった縛りというものがないとおそらくはうまくいかないだろうと思います。それが厳しいものになればなるほど大企業が有利になり、地元の中小企業というのが対応に遅れることで仕事が続けられなくなる。熊本は中小企業が圧倒的に多いので、縛りを設ける場合でも、中小企業でも対応が可能な範囲で皆が率先してできるようなものを策定していただければいいのではないかと思います。以上です。

○藤原委員

熊本 YMCA の藤原です。お話をうかがいながら、私はこの「環境審議会に出た意見」というところの「10年後の地球環境の変化に対する価値観の変貌にも対応していくことが大事」というポイントが確かにそうだなと、こちらに来させていただきまして感じました。私どもはアースウィークの事務局をさせていただいております。今年で21回目になりましたが、最初から活動されている方、最近はユースかんくまを始めいろんな方々の参加がありますが、その中でよくかがう意見が、「最初は啓発が目的であった。今はそれを実行する時に来ている」というお話を伺います。それでいくと今後の10年間はどのような時期になるのだろうかというのを、会議の中で皆さんとお話を進めていくことができたらと感じました。

○守田委員

農業後継者クラブの守田です。平成13年、第2次の検討会議のときには私は熊本におりませんでしたので、恥ずかしながら今回初めて聞く言葉が多々ありました。ただ、環境については私たちの地区は天明地区なので川なども下流にあり、川はきれいにするという農業に例える話になるかと思いますが、とても大事なことだと思います。農業後継者としても熊本市中に活動しておりますので、なかなか今までも皆やっていることであっても意識をしてなかったことが多いので、後継者としても皆が意識をしてくれるような活動をしていけるよう学んでいきたいと思っています。それと異業種の方々との交流の機会も与えてもらっているので勉強して意見を言っていきたいと思っています。

○大住委員長

普段、お仕事をなさっていて、環境のこととか感じることはないでしょうか。

○守田委員

自分たちが作っている作物、田んぼなどはもちろんです。今まで思っていませんでしたが、田んぼや川などの清掃をしているとゴミがあるのが一番気付いてしまいます。そういう仕事に就いて、初めてゴミなど捨てたらいけないと感じるようになりました。実際友達が飲んだ空き缶をその辺の田んぼに捨てたときに「オイ、捨てるなよ」と。相手が農業をしていなくて意識していないと、どうしてもそういう気持ちは持てないと思います。自分がやってみて初めて感じました。

○大住委員長

ありがとうございました。

○永木委員

熊本県立大学の永木です。私は学生時代、東海大学で環境保全学について学びました。今は荒木教授のもとで住民が主体となる住民参加型の社会づくりシステムというのを研究しているのですが、その2つを総合的に考えていきたいと考えています。環境保全といっても地球が誕生した頃からさかのぼって考えてみると地球温暖化が現代では言われていますが、今とは全く違う状況だったということを学びました。それで何が環境保全になるかと掘り下げて考えると、私たち人間、住人が住みやすい、快適な地域づくり、環境を整えるということが一番環境保全につながるのではないかと思います。ここで話にもありましたが、誰が主体なのか、自然が主体なのか

と考えると、私は人間が主体だと思います。そこで市民が参加して自分の身の周りが快適な環境になるのを実現するためには、住民と行政の関係の橋渡し役的なものが策定委員会であり、そこで考えることが重要ではないかと思います。そのためには住民一人ひとりのニーズにあった、例えば時間帯、興味を持つ課題、様々なテーマがあるので、一人ひとりが興味を持てるようなテーマを行政やいろんな企業が提示して、気軽に参加できるようなシステムづくりが必要なのではないかと思います。またそのためのコミュニティの場をつくるということも大切だと思います。

○林委員

熊本学園大学の林です。私は宮北先生のゼミに入ってから環境のことについて深く学ぶようになりました。それまで環境についての授業は受けていたのですが、意識して取り組んでいたかというとなんか意識は高くなかったと思います。去年の環境フェアに初めて参加させていただいたときにも、まだまだ若い人の参加や、足を止めて見てくれる人たちが少ないと改めて感じました。今、学園大では地下水涵養米のことや、マイボトルのモニター実験が始まったのですが、学園大に通っている人で何人の人が足を止めてパネルを見ているかなと考えると、まだまだ少ないと改めて感じるようになりました。去年はゼミで環境フェアに参加するときも、ただ参加するという意識だったのですが、今年はもっと学校全体に呼びかけられるような何かができたらいいと考えています。もっと若い人たちが興味を持てるようなまちづくりができるようになればいいと考えています。

○奥山委員

私は一市民として公募で参加させていただいております。環境に関しては何年も前から興味がありまして、愛・地球博をきっかけにロハスと言う言葉を聞き、ロハスのことについて勉強いたしまして、今からそういうライフスタイルはないかと何年か過ごしてきました。しかし特に目立ってアクションを起こすということもなく、自分の家族や友達、親戚などに「こういう行動が環境にいい」と伝えるくらいのスタンスでいいかと思っていましたが、あることをきっかけにアクションを起こさないといけないと思って、この場にいるわけです。今年になって熊本市の環境団体について全然知りませんでしたので、どういふのがあるのだろうかと思って調べてみると、NPO の温暖化対策センターもありますし、その他エコパートナーさんもあります。自分で調べてみて初めて分かったというか、ただ普通に市の広報とかを見ていると一般市民には分からないんです。どういふ団体があつて、どういふ仕事、活動をしているか。例えば EPO 九州さんがあります。EPO 九州さんは環境省ですね。かんくまさんはまた別枠の NPO ですね。そういうのが私たち市民には伝わってこない。いろいろあるということが分かり、そこで、いろんな活動に顔を出してみようと思って顔を出したんですが、そこに顔を出される方たちはステークホルダーなんですね。一般市民の人が少ない。いろんな活動に顔を出しますと同じ顔ぶれの方と会うんですね。いろんな活動に参加して、毎回違うメンバーにお会いしたら多いと思いますが、毎回同じメンバーと結構お会いするんです。ということは環境にこだわってやっている方はすごく多いとは思いますが、市民を分母とするとすごく少ない数だと思います。私が思うにもう少し市民が積極的に参加できるように、NPO 法人さんは予算とかあまりないと思いますので、情報公開と言いますか、市で公的に PR して、市民がこうい

環境団体を組織していて、こういう活動をやっているから私も会員になってみようかと思わせるような市政をやっただけなら市民としては助かると思います。先ほど学生の方も言われておりましたが、足を止めて見てくださる人が少ないんです。私はグランメッセとかエコフェアとかこの前のアースウィークに参加させていただいたんですが、圧倒的に人数は主催者側が多いんです。一般市民の方々はなかなか足を止めてくださらない。それが一番の問題だと思います。やはり市民に普及させるように啓発とか広報に力を入れていかなければいけないと思います。地球環境の根本的な解決は一人ひとりが地球に生かされているという思いを、市民であろうと会社であろうと国だろうと、皆人間ですので、そういう気持ちをもってやっていけばいい方に進むのではないのかと、「自分ひとりがやっても…」と思わないで、「自分がやらないと誰もやらない」という気持ちでいけばいい方向に進むのではないかと思います。

○大住委員長

ありがとうございました。では私も言います。私の活動のキーワードは、「見えない風景を共有する」というものです。例えば熊本市の西に釣耕園というところがあります。それは昔、曲水の宴があった所なんです、それは金峰山を背景にした湧水地帯を持っているからできる庭園なんです。でもそこは今荒れ放題です。そこがきれいに曲水の宴ができるくらいになれば、それこそ観光も振興させることになり地下水も涵養でき、今はない風景を共有できれば活動がスムーズになるかなと思います。それから東の方に行けばどんどんマンションが建っています。マンションがなかった時代、そこにはたくさんの湧水地がありました。だから、いつかこのマンションが建て替えの時期が来たときに、もう建てないという条例を作っておくとか、そういう 10 年後というよりも 100 年後も見据えた、「見えない風景を共有する」ということが地下水を飲み続けられることにつながるかなと思います。もう 1 つはまちづくりで、大学とお城を中心にした、姉妹都市のハイデルベルグの話なんです、ハイデルベルグ城を中心にして大学があって、そこには豊かな街ができていたという話を聞いたことがあります。それは熊本市にも当てはめられるのではないかと。大学生がたくさん熊本に来て、そうすると水が豊かでとても安心できるということを親たちが知って、親たちもいつかは住んでしまうという街になればいいかなと思います。そのためには見えない風景というのは大事だと思います。江津湖は今ヘドロのような湖になっていますけれども、それが昔、豊かな湖だった。それが昔、豊かな湖だった。たくさんの置屋さんが江津湖の周辺にあったという、昔物語があるんですけれども、そういう風景を共に見ながらお城と大学を中心にした活気のある街が作られていけば、特に何かを考えなくてもずいぶん豊かな街になるんじゃないかなと考えています。今、皆さんから自由に言っていたいたんですけれども、何となく方向が見えてきているような気がします。それを今度まとめていただいて、それを読めば、「あ、こんなことが」というのが見えてくると思います。最後に山口さんが残っていますので言ってください。

○山口委員

今、第 2 次総合計画を改めて見ていたんですけれども、最終的に基本計画のところでもスローガンのにも立派な言葉がたくさん入っています。これは環境総合計画としては当然の話ですが、結局「環境総合計画をつくってはみたけれども、かけ声だけになってしまった」ということによく陥り

ます。なぜかという環境保全だけの計画を表現してしまうというところにあるんだと前から思っています。熊本市と姉妹提携しているドイツのハイデルベルグは本当にきれいな街で、95年から2003年まで5回くらい見に行きました。ハイデルベルグ市の教育と環境保全ということでとても勉強させていただきました。14万人くらいの都市ですが、そこで何が一番記憶になったかという、それにあわせデンマークやスウェーデンも見たんですが、共通点があります。それはヨーロッパの環境保全というのは「エコロジーとエコノミーの両立」というのを表に出しています。これは基本的なところでエコロジーはそのまま訳すと生態系とか生態学とか、今では自然環境とか環境保護とかという言葉で日本でも訳されて紹介されています。もう一方でエコノミーというのは経済振興とか経済発展だけなのかという、実はエコノミーというのはものすごい日本語訳があるんです。ひとつは「財政」。街をどう作るのか、基本として財政というのは必要なわけですから。それと2つめは「節約」という言葉です。それから「経済」。経済の語源は「経世済民」というものです。つまり世の中を救い、民を救うという意味です。それからもう1つ「自然界の秩序」という意味があります。これがエコノミーの日本語訳です。ということはもともとエコノミーとエコロジー、とても発音が近いというのは語源が近いところにあったということです。他にもそうですが、発音が近いというのは始まりがとても近い、もしくは同じだったということだそうです。さらに進めると、エコロジーとエコノミーの両立をするためには経営をしなくてはいけない。都市の経営、町の経営、企業の経営。NPOもNPOの経営をしなくてはいけない。経営をするということは持続可能ということです。収支のバランスがあっているということですから。大好きな言葉ですが、経営するということを仏教の言葉で言うと「質の高い生き方をする」という意味なんですね。とてもすばらしい言葉です。そのところを、エコロジーとエコノミーの両立というのを個人的に、今日現在としては今後の環境総合計画の中に希望したいなと思います。そうすると、人と自然の関わりとか、自然と社会の関わりというか。それからESDという言葉をご存じでしょうか。日本に入ってきてやがて10年ですが「Education for Sustainable Development」という、「持続可能な開発のための教育」と訳されています。どうも「開発」というイメージが日本人にはあまりよくありません。そこで「開発」というのは「地域づくり」に置き換えた方がいいと提案しているんですよ。そうすると「持続可能な地域づくりのための教育の手法」という風になってくるぞと。教育の手法の中で一番出てくるのが環境教育。つまり人と環境、人と自然、自然と私たちの暮らしとの関わりを知るということです。そういうところをポイントとしてぜひ日本の都市もこれからの環境総合計画の中に入れてほしいと思います。明確にハイデルベルグ市がその表現をしているかは定かではありません。少なくともヨーロッパの都市というのはエコノミーとエコロジーの両立というのが大きな課題であるということは確かですので、そこはテーマです。最後にもう一つ、今の民主党政権、賛否両論いろいろありますが、2つ感心していることがあります。地域分権から地域主権という言い方をしています。地方と言われているところにこそ、主権を持って、主体になってやるということ。それを基本として考えると、今回の環境総合計画も大きな意味を持ってくるんじゃないのかと思います。あわせて今、民主党が言っている「新しい公共」。単なる行政だけが公共になるのではなく、市民もNPOも公共というものになっていく役割を持っているんだということを言っていますので、その辺も含め、今日の時点では個人

的には環境総合計画に反映していただくとうれしいなと思います。

○大住委員長

ありがとうございました。最後を山口さんにしてよかったと思います。皆さんからいろいろ意見を出してもらったら時間がなくなってしまいました。もう一巡くらいできるかなと思いましたけれども。残念ですけれども今日のところは言っぱなしで終わりたいと思います。次回は今日のことも踏まえて議論していきたいと思います。スケジュールの第1回は無事に終わります。第2回は6月中下旬ということですが、今後10年間の熊本市の環境行政の基本的理念、取り組みの方向性というのを検討したいと思いますので、よろしくお願いします。事務局から何か事務連絡はございますか。

○事務局

委員長のご報告がありました。次回、第2回の先ほどのスケジュール案では6月中下旬予定としておりますが、会場の都合、欠席の委員の方々の都合もありまして、6月18日金曜日午後、もしくは24日木曜日午後で調整させていただきたいと思います。午後2時から行いたいと思います。

○大住委員長

それでは中途半端になってしまいましたけれども今日のところはこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。

(終)